

長生村長賞

千葉県／85歳／女性／主婦

おき えっこ

沖悦子様

✉手紙の相手：中学・高校時代からずっと交流のあった神父

天国の長谷川神父様へ

長い間御無沙汰致しております。天国にいらっしやる神父様は何でも御存知でしょうから改めてお知らせする迄ありませんが、今年のノーベル平和賞に「日本被団協」が選ばれました。本当に明るく嬉しいニュースです。

十四歳の時、人類初の被爆体験をなさり、九死に一生を得た神父様は、核のない世界、戦争のない平和な世界になるように、日夜祈りと平和推進運動に一生を捧げた方でしたから、この度のノーベル平和賞決定を誰よりもお喜びと思います。

私の脳裏には神父様が原爆の生証人として冬でも上半身裸になつて背中一面と両腕のケロイドを機会あるごとに見せていらした姿が浮びます。たった一発の爆弾で一つの街が壊滅状態になり何万人もの命を奪った核兵器の恐ろしさ悲惨さを訴え続けて

いらした姿が今も鮮明に思い出されます。そのケロイドに無数の穴が開いているのはウジ虫が居た穴で、お母様が毎日ピンセットで取り除くのが仕事だったとか。大火傷を負いながらも奇蹟的に生返ったけれど、お姉様を始め多くの級友を失い、御自身も放射能による原爆症と戦いながら八十四歳で天に召されました。

神父様はいつも私達におっしゃいました。「人は皆神様の子供、仲良くしなければいけない。欲張ってはいけない。ポケット一杯の幸せで満足しなさい」と。「戦争は人間の欲や妬みが引き起すもの。ポケット一杯の幸せで満足すれば争いはなくなるのですよ」とも。

この度のノーベル平和賞受賞により、核のない世界を造ろうと皆の平和への意識が高まる事を大いに期待しましょう。人類が二度とこのような誤ちをくり返さないよう、どうか今戦争をしている国々が早く平和な国に戻りますよう、天国で見守って下さいませ。

敬具

✉手紙への想い✉

生涯平和運動にたずさわり、自身も被爆して大やけどを負い、九死に一生を得て、神父になった方。ノーベル平和賞を受けたことを、すごく天国で喜んでいると思えました。核のない世界、戦争のない世界が来ればよいと、願いを込めました。